新潟の門徒推進員

発行
浄土真宗本願寺派
新潟教区門徒推進員連絡協議会

第１２号
H27年３月１日発行

ヘイトスピーチ

新潟教区教務所長
野　村　宗　雄

郷の田舎に集落の小規模な共同墓地があり、帰省の際に訪ねてみました。昔からある家の墓の他に、見知らぬ家（名字）の墓、その中には在日韓国人の方とわかるものもありました。予想外の田舎の現実に、残念ながら「何故」と一瞬否定的に見てしまったことでした。

しかし、考えてみれば自分の幼小期他所から移住の家などほとんどなかった田舎でしたが、40年ほど前より建売住宅が建ち始め、その家の中から墓地を持つ家が出てきて、その中に在日韓国人の方がいたということです。自分(達)とは異なるものに対して線を引いてしまう。それは歴史的に形成されてきた観念（偏見）や格差、多数者と少数者、身近と他所など自分を基準にした理由でされ差別となる危うさがあります。

昨今、韓国や北朝鮮との摩擦がそれぞれに問題となっています。そんな要因も加わってか、在日の韓国・朝鮮の人達への嫌がらせ【ヘイトスピーチ】が多発しています。集会、デモ、あるいはインターネット上で「出ていけ」さらには「ぶっ殺す」とまで言い、人を人と思わない言葉による暴力行為です。

人を見下して言葉や行動に表す不当、不平等なあり方、相手が悲しみ傷つくことなど関係なし。差別とは自己中心の閉ざされた心から生ずる恥ずべき悲しいものです。相手に少しでも思いが及べば、気付く事もあるのでしょうが、そんな心もないのですから、愚かさは見えません。

様々な違いの中にいるのが私達です。いつの間にかその違いから差別し、誰かを傷つけてきているかもしれません。そんな私(愚者、凡夫）であるところに立ち、ともに生きる謙虚さを教えてくださるのが浄土真宗でありましょう。

ヘイトスピーチの実態は、むしろ何が悪いと聞き直っているように見えます。匿名で書き込みできるインターネットでは、部落差別についても例外ではありません。

さて、私たちは何を実践すればいいのでしょう。

教区門推協会長に就任して

新潟教区門徒推進員連絡協議会会長
長岡組　正楽寺
細山隆朋（釋義弘）
中央教修一四〇回

新潟教区門徒推進員の皆様、新年明けましておめでとうございます。健やかに新春を迎えられたこととお慶び申しあげます。

昨年中は皆様には、会の活動方針に基づき、活発な活動を展開して頂き、心より感謝とお礼を申しあげます。会長に就任させて頂き七ケ月が過ぎ、会の発展のため、微力を尽くす覚悟であります。会員の皆様のご支援ご協力を宜しくお願い申しあげます。

　昨年は本願寺において法統継承式が行われ、大谷光淳様がご門主に就任され、ご消息を発布されました。私達門徒推進員も、ご法義の繁盛と宗門の発展のため努力しなければならないと考えております。また、一月十六日に御正忌報恩講法要日中法要後「ご消息」が発布されるとの連絡があり、どのような内容かわかりませんが、会報が発行される時には、皆様の手元に届くと思われます。

　昨年九月二十七日には、第一連区門徒推進員実践運動研修会が、東京築地本願寺にて行われました。新潟教区から十名の皆様から参加して頂きました。一日目の講師の麻布明徳先生から「心豊かに生きる社会の実現のために門徒推進員に望まれること」、二日目に今井雅晴先生から「親鸞聖人様の越後から関東へ」を題して講義を受け、大変勉強になりました。次回は長野教区の担当で、長野教区からあいさつがあり、研修が終了しました。

　本年が門徒推進員の皆様にとって、健康で良い年でありますように、心より念じまして、挨拶といたします。

合　掌

ご聴聞

与板組　雲外寺
丸山正義（釋正義）
中央教修一八七回

　ここ二・三年、寺への聴聞参拝を見、聞き及ぶに参拝者の減少傾向がすすみ、定例・常例法座が維持出来ずに取り止めようかと考えておられる寺もあると聞きます。浄土真宗のみ教えは、聴聞につきると教えられてきました。私にとっては寂しい限りです。

　私にとって聴聞とは、何をどう聞くかというと、本願「阿弥陀様の願い」のいわれ（意味・心・はたらき）を聞かせていただき、今の自分と照らし合わせ自分の愚かさを見つめ直し、救われる身となったことを喜ばせていただいております。そして、一人でも多くの方に伝えていける力となり、人生観が変わったことです。門徒推進員になって良かったと思います。

　具体的に何が変わったかと言うと、浄土真宗の生活信条にあります『常にわが身をかえりみて、感謝のうちに励みます』とあります「ありがとう」が言葉に出るようになりました。「ありがとう」が言えるとその先には思い遣りの心が生まれます、と理解しておりますが、刻々と変わりゆく心は煩悩に振り回されて、なかなか「ありがとう」「ごめんなさい」と生きられない自分に気付かされ恥ずかしさを感じております。このような私を必ず救うとはたらいて下さる「南無阿弥陀仏」であります。又、聴聞に寺へ行かねば。

　我ら門徒推進員として、いかに門信徒の方に聴聞の大切さを伝えて行けるか大きな課題です。せめて御取越報恩講、春秋の彼岸会、宗祖降誕会、盂蘭盆会は参拝していただけるよう声掛けして行きたいです。

　又、門徒推進員として、住職さん・総代さんともよくよく話し合い、子どもさんや各年代の人が集える法座が組めるか提案してはいかがでしょうか。門徒推進員の皆様が参加し合える法座が開かれた寺となり、増々盛んな聞法となることを望みます。自他共に心豊かに生きることの出来る社会へ。

御同朋・御同行

門徒推進員中央教修に参加して

長岡組　善行寺
土田興作（釋正意）
中央教修二三六回

平成二十六年十月十日から三泊四日の日程により、本願寺聞法会館で第二三六回の門徒推進員中央教修に参加させて頂きました。長岡組の連続研修に一定以上参加して、中央教修に参加できました。

第一日目は十一時三十分からの受付後、開会式と記念撮影があり、その後班別で自己紹介を含めた話合がありました。そして法座が三時間程あり、夕食をはさんで法話、就寝勤行と目一杯のスケジュールで精神的にも疲れた一日目でした。

第二日目は午前六時からの晨朝参拝後の帰敬式で、ご門主さまからお髪そりをしてもらいました。門徒としての自覚をもって強く生きていくことを誓う大切な儀式です。朝食後法座を受け、午後からの法座では「御同朋の社会とは」と題して差別問題のお話があり、現在もある差別問題の解決への取り組みの重要性を考え、班別の話合いをしました。午後四時からは音楽法要を受け、先生の軽妙な説明で音楽法要の楽しさと素晴らしさに感心しました。夕食後には法名を授与されました。法名を頂いた事に感謝申しあげます。

第三日目は晨朝参拝、朝食の後法座を受け、浄土の教えを教えて頂きました。昼食後には私達の班のスタッフの方から、一人一人に悩みや生き方等の貴重なアドバイスを受けました。夕食の後は参加者が一番緊張すると言われる決意表明式がローソクの灯りの厳かな雰囲気の中で行われました。ご門主さまの前で、決められた作法により各自の決意を述べることは思った以上に緊張しました。

第四日目は晨朝参拝後にお斎を頂き、その後に全体会があり参加者の感謝の言葉が発表されました。四日間の朝から夜間までの厳しい日程ではありましたが、班別の会合で自分の考えを述べたり、全体会で班の報告をしたりと貴重な体験をさせてもらい、スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

合　掌

多くのご縁をいただいて

長岡組　西福寺
中村恒也（釋恒純）
中央教修二三四回

十年前に本山から届いた両親の「永代経法要のご案内」を頂いた事から気付かせていただきました。本山阿弥陀堂にて読経があり、続いて多くの参拝者の中から何故か最初に焼香のご縁をいただきました。

この年からご住職から寺の常任委員会のご案内をいただき、世話人総会・報恩講にと寺の行事に参加させていただき、また、ご住職からのご案内もあり本願寺新潟別院にて新門さま（現・ご門主）からの帰敬式を受け、浄土真宗の門徒として自覚を新たにしました。

それからは教区の各研修会への参加、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要団参、ご門主の法統継承式への団参、そして門徒推進員中央教修受講。全国からの五十一名の方々と共に参加させて頂き、三泊四日の研修は毎朝のご晨朝参拝で始まり「決意表明」まで。そして門信徒教化部部長を始め事務局の方々と全国からの十五名ものスタッフの方々からのご指導、出会いのご縁に恵まれ、最終日には晨朝参拝の後、国宝「書院　鴻の間」で頂戴したお斎は大きな感銘のご縁をいただきました。

また、昨年の長岡組聞法会三十周年記念大会にも参画させて頂くご縁もいただきました。

この十年間の間、この様に多くの方々との出会いのご縁に恵まれて過すことが出来たことに改めて感謝させていただいております。これからも門徒推進員の一人として自覚を持ち、ご聴聞の機会を過させていただくことを念じております。

合　掌

ビハーラ活動との出会い

元上組　託念寺
堀井美子（釋心清）
中央教修一一三回

私は長岡に嫁いで三十年もの長きに亘り、会社勤務と家事一途に生活してきました。定年を迎え私にも他に何か出来ることはないかと思っていた矢先、元上組のビハーラ活動との出会いがあり、『こぶしの会』に入れて頂きました。メンバーは、長永寺の坊守様、極楽寺の坊守様、明鏡寺の今井さん、そして託念寺の佐藤さん、岸さん、私の六名です。

初年度は親鸞様の七不思議の朗読、次年度は柴田トヨさんの詩の朗読と『ふるさと』のオカリナ演奏、そして現在は佐藤キナさんの『一人じゃなかもん』の詩にメロディーが付いて手話をしています。

活動は元上組の各寺院を巡る法中講に参加させて頂いております。そして他組寺院の報恩講やグリーンヒル与板の報恩講にも参加させて頂き活動範囲が広くなり本当に有難く、感謝しております。この他にも長岡市浦にあります老人ホームのわらび園を訪ねて、園の方々に昔話の本を朗読したり、縫物を手伝ったり、歌を歌ったりしています。昔覚えた歌は忘れないものですね。歌い始めると、園の皆様の表情が明るくなって楽しそうにハツラツと歌って下さいます。私も元気を貰って帰ってくることが多々あります。

思えば四年近く携わらせて頂いて、多くの方との出会いが、今の私の原動力にもなっております。

ビハーラの活動理念は『あらゆる命は、はかなくも、かけがえのないものです。その命のかけがえのなさに目覚め、お互いが御同朋として思いやりあうところに、仏教徒の生きる姿勢があります。』と掲げてあります。

この理念を基に、これからも出来ることから活動を継続していきたいと思っております。

合　掌

四十年ぶりの築地本願寺参拝

三条組　福勝寺
細野美惠子（釋美惠）
中央教修一二三回

東京に住む娘達の用で、時々上京する。待ち合わせに銀座四丁目の鳩居堂が私のお気に入りである。そこから徒歩十分にある築地本願寺のことは、長く忘れていた。去る平成二十六年九月二十七、二十八日「第一連区門徒推進員実践運動研修会」の会場となり参加した。

四十年ぶりに正門に立った時、しばし動けなかった。若かりし頃の思い出が蘇ったからである。実家は、山口県下関市の寺であり、宗門校　北九州市　鎮西女子学園（現・鎮西敬愛）中高で学び、同じく東京武蔵野女子大学（現・武蔵野大学）に進んだ。宗門校の学生、しかも寺の娘ということからか、半ば強制的に築地本願寺に参拝させられた思い出である。昨年退任された即如前門主さまも、当時東大生で、時々お見えになっておられたなと。

我に返ると、様変わりで月日の経ったことを思い知らされた。外国人の参拝客の多さだ。観光化しているのか、中国語、英語が飛び交う。インド式建築も幾分くたびれて見えた。そう、時間は流れているのだ。

九十年前、母方の祖父（山口県萩市）が築地本願寺輪番だった頃、母は生まれ、築地小学校に通っていたそうな、そんな所への再会であった。

　受付で新潟教区の皆様と合流。伝道会館で研修の始まりとなった。講師の麻布明徳氏は連研中央講師、三重県津市善福寺住職。地元では、伊勢神宮や真宗高田派の本山がある為、少数派の悲哀をユーモアを交えてお話下さった。二日目の講師は今井雅晴氏で筑波大学名誉教授、真宗文化センター所長という学者の立場から「親鸞聖人の関東伝道」の重要性を講演された。京都中心の真宗資料だけでなく、もっと関東の果たした役割りを外部の資料（笠間市史・郷土史など）からの検討を望むという内容だったと記憶している。

　充実した二日間も終え、会館で皆様と別れた。再度本堂に入り参拝し、あんなパイプオルガンが弾けたらなと思いつつ、本堂で待ち合わせしていた三女と外に出た。

お寺へ行こうよ

地蔵堂組　浄専寺
伊藤スミ（釋愁照）
中央教修一六一回

最近仕事が忙しい、暇がないと言って寺院のお参りや行事に参加する人が少なくなってきました。ご先祖のことなど考える余裕がないのでしょうか？どんなに立派なお仏壇でも、心がこもっていなければ意味がないと思います。お参りする時間は、自分で作るものではないでしょうか。

　先ず、お寺に足を運んで見てください。少しずつでも自分が気付かなかったことや見えなかったものが見えてきます。この先私はどうなるのだろう？と不安と心配になりますが、私の拠り所が決まれば安心しておまかせする所があります。

　阿弥陀様のよび声が聞こえてきます。

今、ご縁あって法語をと聴聞していることとは、すでに阿弥陀様のご慈悲の中に生かされて生きていると気付かせてもらうことです。

　家族制度の崩壊、核家族の増加などで社会が今大きく様変わりしつつあります。老人が増え少子化のため今までやってきた行事を継承するのが難しくなってきたように感じます。その結果、祝事は派手にするが、葬儀や仏事など希薄になってきたように感じるのは私だけでしょうか？その果て家が絶え、墓は無縁墓地、などと情報が報道されるとああ…今はこれで良いのだと錯覚する人がいると思うと、心が締め付けられます。

　今からでも遅くありません。お寺を好きになってください。私の拠り所となる仏様のことを、聴聞するのが好きになるチャンスです。

　私は門徒推進員というご縁を頂いたので常に寺と向き合い御同朋の社会をめざして、皆さんがお寺に集うよう心掛け精進していきます。

合　掌

寄り添う日々に感謝

新潟組　真称寺
村山誠一（釋建法）
中央教修一九二回

あれから八年半が経とうとしております。一年半の闘病生活も虚しく早や過ぎた浄土往生への旅立ちで私の心は空洞になっていた日々が続いていました。しばらくしてお寺のお付合いが始まり、ご本尊に参拝する機会も増えご門徒様とのご縁も得られるようになりました。以前は一般的なお付合いでしたので遠のいておりましたが、「妻との別れに遭遇し」やりきれない苦痛が幾日も続いていました。そんな中、お寺様より連研を勧められ「信心を共にしている皆さんとの出会いや話合いなどを通して、ご縁を

大切に新しい人生に向かい前向きに進むことで気付く点も多くあるのでは」と打診され、迷わず連研と中央教修に参加しました。

同じ悲しみを持つ方々と心から話合いをして共感した同志がいた事で自分を知る事が出来無事に修了する事が出来ました。今「門徒推進員」として微力ですが親鸞聖人のみ教えを喜ぶ方々と共に組の活動に参画させて頂いており、ご縁の尊さを心から感謝しております。

毎朝目覚めて生きている実感を喜んでいます。この生活に戻るには苦難の日々が襲って来て、時だけが過ぎて行きました。しかし、お陰様でご縁のある方々が寄り添ってくださり、励ましの言葉や行動を共にして話合って下さった事が持ち直した要因でした。また、お寺の各種行事や「お経会」三部経の繰り読みや正信偈の唱和などに参加させて頂い事もそうです。生かされている間は「悩み辛く悲しい事も嬉しい事も」素直に受け止められるようになって来ているようです。

先に旅立った妻が残して逝った言葉に「辛くたって、悲しくたって色々あった方がいいじゃない、人生には」でした。これからも「み教えを信じ念仏申す道を大切に」精一杯生きる事だと思います。いつも寄り添って下さる事の有難さを感謝し、生きている喜びを念じ日々大切にして身近な事から協力して行きたいと思っております。

私のご縁

巻組　願正寺
本間正三（釋謙敬）
中央教修一五二回

平成十五年二月に第一五二回門徒推進員中央教修に参加させてもらいました。その前二年間は、巻組の連研で活動し多くの人達と出会い、同じ目的を持って行動し活動させてもらいました。

早いもので、十二年が過ぎ去ってしまいます。中央教修での決意表明をして浄土真宗のみ教えを身近な人から話合いを持って行こうと思い、子どもや妻から始まり親族や友人にと話合いの活動をしていました。

話合いの中で出てくる言葉に「この頃仏壇に礼拝してません」「葬儀が無いのでお寺に行って礼拝する事が無いです」との言葉が良く聞かれました。自分のお寺は知っていても宗派は何なのか、仏壇とは何なのか、焼香の作法、合掌の作法など、普段の生活には必要のない事であると考える人が多いのにはビックリしました。この事からはじめて行こうと決意新たに活動し、宗派は浄土真宗本願寺派です。毎月一回以上は、仏壇の前に座り合掌して念仏を唱えて、一歩ずつ前進して行くようにと思い活動していました。

時が過ぎるにつれ、仕事や私用が多くなり活動から遠ざかりかけた時に、二十六年度の巻組門徒推進員の役員になり研修会などに参加して、活動を再開させてもらいました。

八月二十一日西蒲区間瀬の専光寺様において、巻組フェスティバルin間瀬キッズサンガに参加させてもらいました。お寺に集合して本堂にて合掌から始まり、ゲーム・人形劇などで元気に活動して盛上りました。そして最後に本堂にて合掌して終わりました。この活動に参加した子ども達がお寺に集まり浄土真宗のみ教えを体験出来た事は、すばらしい出合いと言うのかご縁であると考えさせられました。

私も、このご縁にふれ心新たにして自分に出来る事から一歩進んで活動して行こうと改めて考えました。

合　掌

各組門推協研修会紹介

【与板組】研修会について

与板組　隆泉寺
八子　昇（釋昇道）
中央教修一七六回

昨年度より「与板組連研同窓会」と銘打って、研修会を実施しております。現在、連研も第八期が開催され、修了者も百二十名を超え「中央教修」へ参加し、門徒推進員となられた方も三十三名となります。そこで、門徒推進員だけの研修ではなく、連研修了者や履修者も巻き込む企画として、研修会を実施することとなりました。

＊期日　平成二十六年十一月一日（土）
＊時間　午後三時～午後五時三十分
＊会場　本願寺新潟別院

講義①「中央教修について」
講師：上戸聡さん（隆泉寺住職）
まず、教修と教習との違いについてお話があり、中央教修の場は教えてもらって習う場でなく、自らがみ仏の教えを修する場であると説かれました。また、本願寺における得度習礼や教師教修に望む僧侶の心得などにも触れていただきました。

講義②「仏恩報謝の生活について」
講師：真敷祐孝さん（雲外寺住職）
浄土真宗の教えを修して行く生活が仏恩報謝であり、「念仏せよ、念仏せよ、唯、南無阿弥陀仏」と言われました。自然に仏様のご恩に頭が下がり、有難うございますと申さずにはおられない気持ち、心の底から押し寄せて来る心に南無阿弥陀仏と襲いて来ると。また、意識して報謝するよりも、日常の生活に仏様の心を感じることだと。ご自分のご家族のエピソードや門徒さんとの会話を通して、分かり易く説いていただきました。

全体会議
参加者全員より、各寺院での活動報告や今、現在の悩みや今後の活動に向けて発表していただきました。
その後、懇親会では大いに盛り上がり、参加人数倍増の為に推進員が各期連研の幹事となり、同窓会と研修会とを同時開催しようという事で締めました。

【元上組】合同研修会について

元上組　明鏡寺
石橋謹一郎（釋謹真）
本山参拝研修

元上組門徒推進員連絡協議会では、毎年大きな研修会等を開催しております。今年度で十四回目の「さわやか講話会」には約百五十名の皆さんが受講しました。もう一つは「元上組の門徒推進員・連研・み教えを学ぶ集いの合同研修会」です。
この合同研修会について紹介いたします。
現会員数は、門徒推進員四十七名・連研受講者七十名・み教えを学ぶ集い四十二名（重複加入の方も多い）の大所帯です。

＊期日　平成二十六年三月一日（土）
＊会場　明鏡寺（長岡市飯塚）
＊当日の参加者　五十六名
＊研修テーマ　「報恩の思いを行動に」
＊講師　鷲尾純一先生（託念寺住職）
＊法話
「今、お念仏の輪が広がっていますか」
・会えて喜べ～今日は良かった

・日曜学校～人に会う事でその人の声が聞こえる
・経文は一緒に称える～自分は自分で良かった
・出来ることは実践しよう～喜びあえる仲間をつくろう
・若い人に念仏の輪を広げよう～自分は多くの仲間の一人(オンリーワン)だよ
・光明と無明～お念仏を称えよう

法話を受けて全体協議会

　多くの人達から寺に寄ってもらうには、門徒推進員としてどんな役割があるのかなど話合いました。

この研修会資料にご寄稿いただいた皆様

①念仏者としての生活を実践しましょう
　元上組組長　堀川意明
②報恩の思いを行動に
　元上組門推協会長　小林章栄
③お誘いください＝仲間作り＝
　第十七期連研実行委員会委員長白井一二

懇親会

会場近くの料理屋さんで、全員が参加して和気あいあいの楽しい会でした。

【三条組】
恵信尼の里を訪ねて

三条組　大願寺
大屋幸平（釋顕誓）
中央教修一三二回

　三条組門徒推進員連絡協議会研修で、平成二十六年七月、親鸞聖人奥方様ゆかりの地に建つ「ゑしんの里記念館」(上越市板倉区)を推進員仲間十二名で訪ねて来ました。当日の朝はバケツをひっくり返した言葉通りの激しい雨、急遽参加出来なくなった四名を除き、晴れ予報の目的地である上越へ。「ゑしんの里記念館」は、恵信尼さまについての伝絵、諸説、親鸞・恵信尼二人の年表、西本願寺宝物庫から見つかった十通の書状、ビデオ室、貴重な史料等が自由に回覧出来るようになっており、原文、現代語訳、ビデオ解説とも私には難解でしたが、当時代を憶測すると恵信尼さまは流罪となった親鸞聖人を支えながら、各地を転々としているなかかも、子育ての温かい心を失わず懸命に生き抜いた真の強さを感じました。晩年はこの板倉区に移り、八十七歳の長寿をこの地で全うされたことでした。

　又この上越の地は、法然と共に念仏教団の弾圧を受け、京都から越後の国府に配流。聖人は船で居多ケ浜から上陸され、国府で七年お暮しになられたことと、上越には聖人の足跡・浄土教の思案化された地で、本山「浄興寺」には一時遺骨と遺品が納められたと聞く。越後一ノ宮「居多神社」には越後七不思議の一つ「片葉の葦」が七百年？経った今も一角に茂っております。

　近くの日本海を見下す居多ケ浜には「念仏発祥の地」の碑を見、親鸞さま、恵信尼さまに思いをはせた旅の一日となりました。皆様、ご縁をいただき有難うございました。

合　掌

【新潟組】

落語で親鸞～お寺に行こう

新潟組　林徳寺
三原光雄（釋了晃）
中央教修一五三回

平成二十六年度の第三十二回新潟教区仏壮研修大会は、新潟組の主管で新潟市で開催されました。

期　日　平成二十六年十二月二十日（土）
会　場　新潟市民芸術文化会館
　　　　りゅーとぴあ　能楽堂
テーマ　『落語で親鸞～お寺に行こう』

講師に上方落語の「笑福亭仁智」師をお迎えし、一味違った方向から皆さんにお寺への関心を持ってもらうよう、テーマを設定して開催いたしました。昨年の十二月は例年より早い出足の降雪があり、参加して頂く皆さんの交通手段等に影響が出るのではないかと大変心配されました。

開催前日には、笑福亭仁智師のほうから今回の降雪で新潟空港は閉鎖等の心配はないのかとの問い合わせがあったほどでした。しかし、当日は幸いにも冬型が一休みで、新潟空港には支障もなく胸を撫で降ろしました。

新潟組では、特に仏教壮年会員に対象を限定せず、出来るだけ広範囲の方々にご参加頂くよう、門徒推進員協議会や仏教婦人会の皆様方にもご案内をしました。研修大会の運営に当たってもそれぞれの会の方々のお陰で、スムーズな運営が出来ました。

落語講演では、笑いを交えながらの「親鸞聖人ものがたり」は大変好評でありました。特に越後は親鸞聖人に大変縁が深いということで、越後での生活や越後七不思議等にも話が進み、親鸞聖人の御一生に少しでも触れることが出来たのではないかと喜んでいるところです。

落語講演はテレビ等での鑑賞が主ですが、今回の生出演での会場の雰囲気は格別で、皆さん大変喜んでいました。

今後とも少しでも多くの皆さんがお寺に足を向けていただくよう願ってやみません。

合掌

【巻組】

平成二十六年度 巻組門徒推進員研修会

巻組　長厳寺
青柳　治（釋心弘）
中央教修二一三回

日時　平成二十六年十二月十三日（土）
会場　巻ふれあい福祉センター
講師　丸山文雄師（万栄寺住職）

今回の研修会、お題は『お墓』でした。我が班の発言を紹介すると、「核家族の結果として宗教心が芽生えず、お墓に興味がない人が多くなっている」「団塊の世代が第一線を引き、そのまま都会に居り、自分の出身地に帰らず、結果として故郷の墓は荒れ放題」「この頃の風潮では、散骨やエンディングノート」「経済的な理由で定年になってもアパート暮らしで、帰郷も出来ない。生活保護も多いらしい」「法事をしないところも多い」「会費制の法事もあって評判が良かった」「親が死んだとき、頑なに身内を呼ばず兄弟だけで葬式を出している例も見た」などなどです。

以上の言葉はあくまでも一般論で、この研修会の皆さんは所属寺も明瞭としているので、お墓を心配している人はいないでしょうが、自分が亡くなった後はかなり不安を感じている方が多くいました。自分が生きているうちはいいのだが、果してこれからも代々お墓を守っていけるのか。一人ひとりのお墓を立てることは物理的にも経済的にも困難。血縁者みんなで納まるお墓一つあれば、まぁいいのではいかと。お墓は死んだ人のためではなく、生きている人のためにあるとか…。

さて、この前見た朝のテレビ番組でオヤッと思ったことがあります。最近、自ら進んで微罪を重ね刑務所に入る高齢者が多くなったとか。収入は生活が厳しい少額年金だけで、身寄りがない年寄りの受刑者同志が「また戻って（刑務所）来れて良かった」と喜び合っている姿が紹介されていました。

中には、そのまま認知症になり、自分が何で（罪を償う）刑務所にいるのかも忘れ果て、国費で介護され、ついには独房でなくなり、引き取り手のいない遺体は、刑務官の手で荼毘に付され、お骨は堀の外の共同墓所（刑務官の皆さんが経費を出し合って建立したそうです）に納まります。その墓所銘には「倶会一処」とありました。

お墓とはいったい何でありましょうか。

合　掌

聖人の足跡を辿る二つのウォーキング

今年度始めに、親鸞聖人関東伝道八百年記念事業として、二つのウォーキングが開催されました。聖人の歩まれた道筋を辿り、聖人を偲び、そのお心に触れるご縁に、新潟教区から数名の方が参加されました。

①なむの街道を歩く二十五日間の旅

日程　四月一日(火)
真宗大谷派岡崎別院から
四月二十五日(金)
新潟県立歴史博物館まで

【４月２５日 新潟県歴史博物館到着！】

②親鸞聖人の歩まれた道～伝承と口伝を歩く

日程　第一期　四月十一日(金)～十三日(日)
国府別院～榎御坊
第二期　四月十四日(月)～十六日(水)
榎御坊～屋代駅
第三期　四月二一日(月)～二三日(水)
屋代駅～下仁田駅
第四期　五月十二日(月)～十五日(木)
下仁田駅～小島草庵

【ウォーキング風景】

＝編集後記＝

第一連区研修会に参加して、初めて築地本願寺にお参りできました。門徒推進員なって色々の体験が出来、有り難い事と思っております。

第32回仏壮研修大会が、新潟組主管で「りゅーとぴあ」能楽堂にて開催さ、参加致しました。来年度第33回仏壮研修大会は、三条組主管のもと長念寺で開催されます（11月15日）参加者多数期待しております。

三条組　長念寺　谷江　清